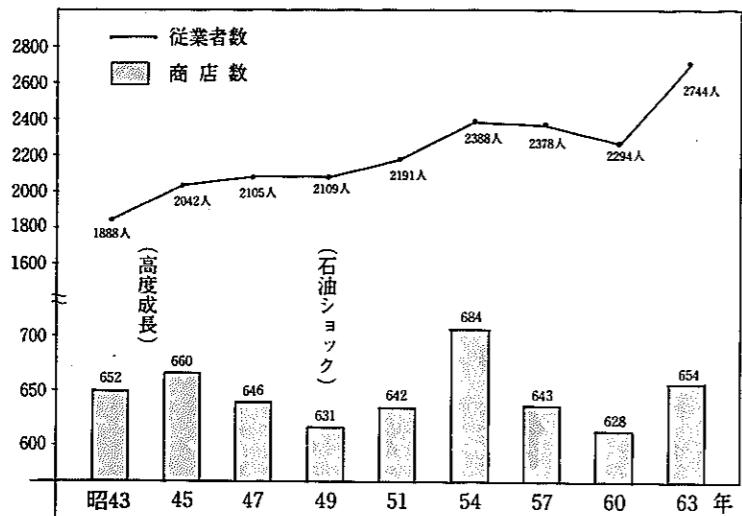


年末年始のお買い物は地元商店街で

白根市商店会連盟
新飯田商店会
白井商栄会
庄瀬商店会

商店数・従業者数の推移 (グラフ1)



従業員数が
すごく増えたわ
大きなお店が
多くなったのね



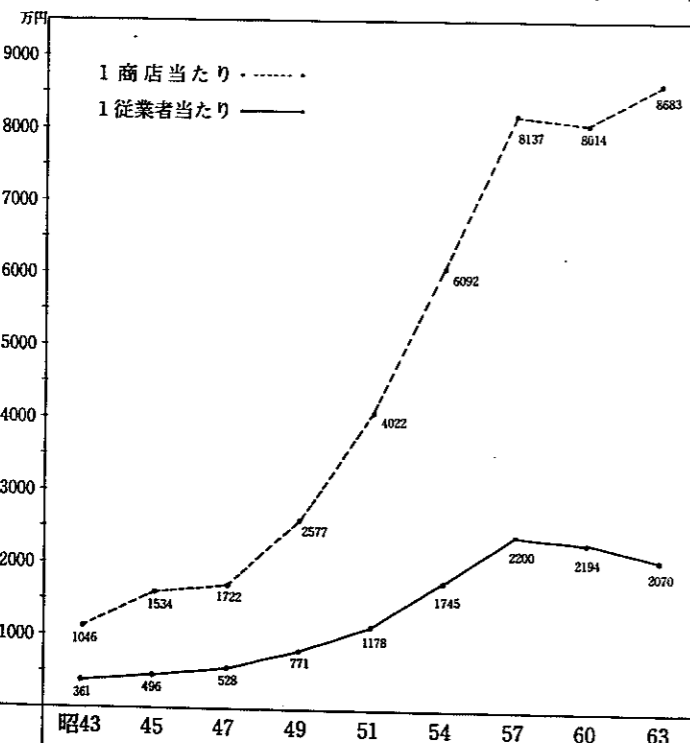
従業者規模別商店数の推移 (グラフ2)

年	1~2人 (58.3%)	3~4人 (24.0%)	5~9人 (11.3%)	10人以上 (6.4%)
昭57	375	154	73	41
60	367	145	82	34
63	340	168	97	49



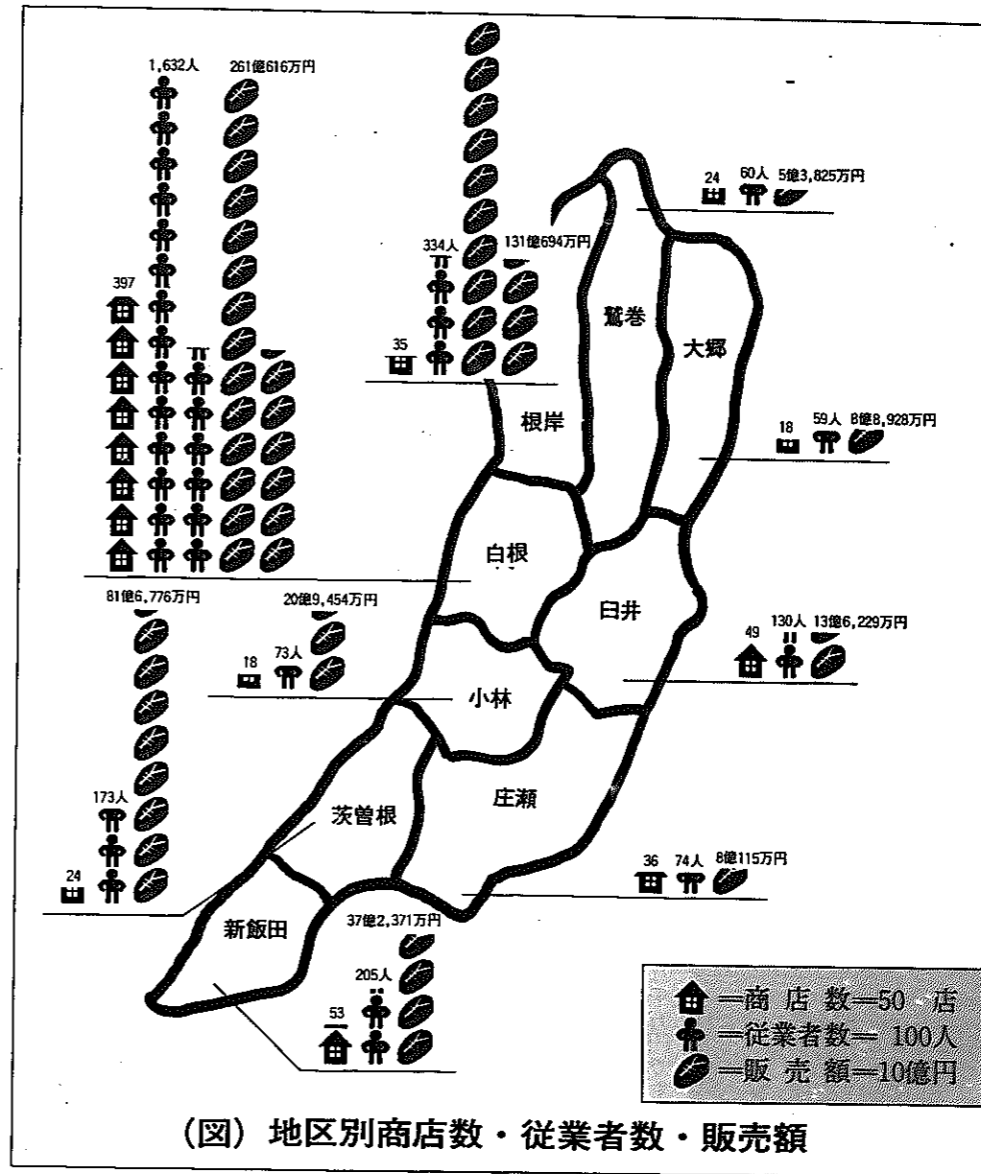
販売額は
今までの
最高だね

1商店当たり年間販売額
1従業者当たり年間販売額 の推移 (グラフ3)



(表) 年間販売額の推移

年	年間販売額 (万円)	指数 (54年=100)	対前年比 (%)
昭43	682,507	16.4	—
45	1,012,276	24.3	48.3
47	1,112,308	26.7	9.9
49	1,626,217	39.0	46.2
51	2,581,957	62.0	58.8
54	4,167,150	100.0	61.4
57	5,232,182	125.6	25.6
60	5,032,535	120.7	△ 3.8
63	5,679,008	136.3	12.8



(図) 地区別商店数・従業員数・販売額

今年六月に行われた商業統計調査の結果がまとまりました。商業統計調査とは、全国の卸売業・小売業を営む商店を対象に、昭和二十七年以来二年ごと(昭和五十一年以降は三年ごと)に行っている調査です。前回は、昭和六十一年に一般飲食店調査を実施しました。

今回は、第十七回目の調査にあたり、六月一日現在で、従業員数・年間販売額・売り場面積・営業時間などについて調査しました。調査項目が前回調査より詳しくなったため、これまで工業として調査されていた仏壇関係の商店の一部が「商業」として入っています。

調査の結果、本市の商店数は六百五十四店、従業員数は二千七百四十四人(男二千四百七十人、女二千二百七十四人)、年間販売額は五百六十七億九千八百万円となっており、このうち、従業員数と年間販売額は過去最高となっています。

従業者規模別の商店数の推移をみると(グラフ2)、1~2人の小規模商店は減る傾向にあり、5~9人の中規模商店が増えているのが目につきます。この傾向は卸売業よりも小売業にはつきり現れているようです。

グラフ3では、一商店当たり年間販売額が大きく伸びているのに対して、一従業員当たり年間販売額は、逆に前回調査よりも減っています。

調査結果を地区別にみると、上の図のようになります。商店数・従業員数・販売額ともに、白根地区の全体に占める割合はそれぞれ、六〇・七、五九・五、四六・〇と最も高くなっています。しかし、一商店当たりの販売額などを、前回調査と比較すると、茨曾根地区、根岸地区などの国道沿いに大きな商店が進出し、国道沿線の商業が進んでいることがよくわかります。

この調査結果は、市が独自に集計したもので、後日、国から発表される数値と異なる場合がありますが、大まかな傾向はつかんできたことと思います。調査にご協力いただき、ありがとうございます。

国道沿いに
お店が増えたネ

商業統計調査結果
昭和63年6月1日現在